

1、会長挨拶

2、議事

① 部会報告（資料1）

【生産・健康・医療部会の活動について】（資料2）

- ・3か月ごとに、産学官7機関の関係者で報告と意見交換を行っている。
- ・昨年の課題は、全国での希少糖の知名度アップであった。RSSが日経新聞の「2014年日経優秀製品・サービス賞」の最優秀賞を食品として唯一受賞するなど、知名度アップという目標は、達成できていると思われる。

【食品産業部会の活動について】

- ・第2回の開催では、サヌキ松谷株式会社の番の州工場の見学会を行った。第3回は、実際にRSSを使っている企業が、希少糖の普及についてどのようにして取り組むか、ということを議論した。

【農水産業部会の活動について】

- ・農業資材については、D-プシコースやD-アロース等の植物への作用機構について、植物細胞中に入ってからシグナル伝達が、動物と違うことが明らかになってきたので、その報告をした。
- ・D-プシコースを生成するズイナの利用について、意見交換をした。畜産試験場も精力的に取り組んでおり、家畜の飼料等にズイナなどの希少糖を使うといった面で、研究が進んでいるところである。

【複合糖質・糖鎖部会の活動について】

- ・当部会は、希少糖とは違う裾野があり、大きくは、バイオ医薬、医療機器に関係する企業と、食品に関係する企業に分かれる。主な取組みは、各企業の個別の取組みを事業化に向けることと、県内企業同士の連携を束ねることである。
- ・SIP戦略的イノベーション創造プログラムに、自然免疫制御技術研究会が採択された。（資料8）

②県の平成26年度事業報告及び27年度事業計画について

【産業政策課長】（資料3）

- ・県事業を説明

③香川大学における希少糖研究の取組みについて

【委員】

- ・県の寄附による希少糖研究を遂行しているところである。

【委員】（資料4）

- ・文科省では、昨年終わりに、「我が国の未来を拓く地域の実現に関する調査研究の調査研究費」の公募があり、香川大学が採択された。
- ・香川大学が、世界で最初に希少糖に取り組んでいるという利点を生かし、糖が様々な産業分野に使えるのではないかと、というコンセプトで調査した結果、糖は多くの産業で使われていることが分かった。
- ・この利用例をもとに、アンケート調査を実施した。回答があった企業にセミナーを行った。その後も個別のヒアリングを行い、綿密な連携、相談が進んでいる。

【委員】

プシコース以外の希少糖研究は、どのくらいまで進んでいるのか。

【委員】

プシコース以外の希少糖も研究が進んでいるが、詳細は差し控える。

【委員】

いろいろな産業で活用できるということだが、50種類の希少糖全てにこのような機能があるのか、それぞれの希少糖の性質による分類があるのか。

【委員】

産業化に至るには、安全性、作りやすさなどのハードルがある。また、ただ量が必要というのではなく、作用が良ければ希少糖は少量の使用で良い。糖の有機化学との合成によって、誘導体がたくさん出てくるので、より強く反応ができるものがあるかもしれない。優先度から言えば、多く作れるものからとなるが、それ以外にも知財として押さえることが大切になる。

【委員】

今までは研究者の発想で進めてきたが、今後は我々が想像つかないような用途、新しいアイデアを含めて連携をしていく。

④食品の新たな機能性表示制度について（資料6、7）

- ・制度について、資料に沿って説明

【委員】

機能糖鎖についても、本制度の利用を検討する余地があるとの話があったが、具体的に考えているところはあるか。

【委員】

科学的エビデンスについて、SIPでは、好中球、酸化LDLやマクロファージの状態が、本当に活性化された状態になっているか、バイオマーカーとして捉え、これを測定するという指標が入っている。それを見出す作業はハードルが高く、これをクリアしないと商品化や機能性表示食品には繋がらない。クリアするための糖鎖のマーカーの開発には、産総研が関連しており、技術開発や製品開発などの出口に近い企業もある。

⑤希少糖関連商品の販売状況等について

【委員】

- ・全国的には認知度がまだ低い。
- ・希少糖ロゴマークの使用が全国的に増えている。

⑥希少糖産業の方向性について

【委員】

菓子工業組合や洋菓子協会でも、RSSなどの希少糖を使う方で動いていただいていると思うが、希望やコメントはないか。

【委員】

菓子工業組合でも、様々な商品の中で、今までの糖に代わって、希少糖を使えないか検討しているところである。

【委員】

RSSを使用した多くの商品が売られているが、どこにどの話を持っていったらいいのか分からない。販売を促進するために「ここにアクセスすれば、香川県で売っている希少糖関連商品の情報が手に入る、紹介してもらえる」というところがあれば、洋菓子協会、和菓子協会との連携も広がっていく。

【委員】

香川大学としても、栄養士の方々や、各地の保健所に協力してもらうなどができれば、と考えているところである。

【委員】

希少糖が様々な分野で活用できることが分かった。弊社の特長を生かした部分に、希少糖との接点がどれほどあるか、可能性を考えていきたい。

【委員】

新薬の開発で大切なものは作用機序の解明である。希少糖がエビデンスをもって効いているか、そこが確認できれば、可能性は否定するものではない。

【委員】

5月8日まで、中小企業者を対象とした「ものづくり・商業・サービス革新補助金」の公募をしている。積極的に活用して欲しい。

企業は、持ち前の技術等を活かして試作品を開発し、改良等を繰り返して製品として仕上げ、販路開拓のような販売戦略に繋げ、売上に結び付けている。一方で、10年先のような長期的な観点で常に大学等と連携し「基礎研究」に取り組んでいくことも重要である。このような取り組みは“時差”を経て、企業が取組む（上述のような）製品開発に結実していく。希少糖プロジェクトは、このような流れができており大変喜ばしい。国としても技術開発支援や事業化支援などの施策があるので、香川県とも密接に連絡をとり、引き続き応援させていただきたい。

以上